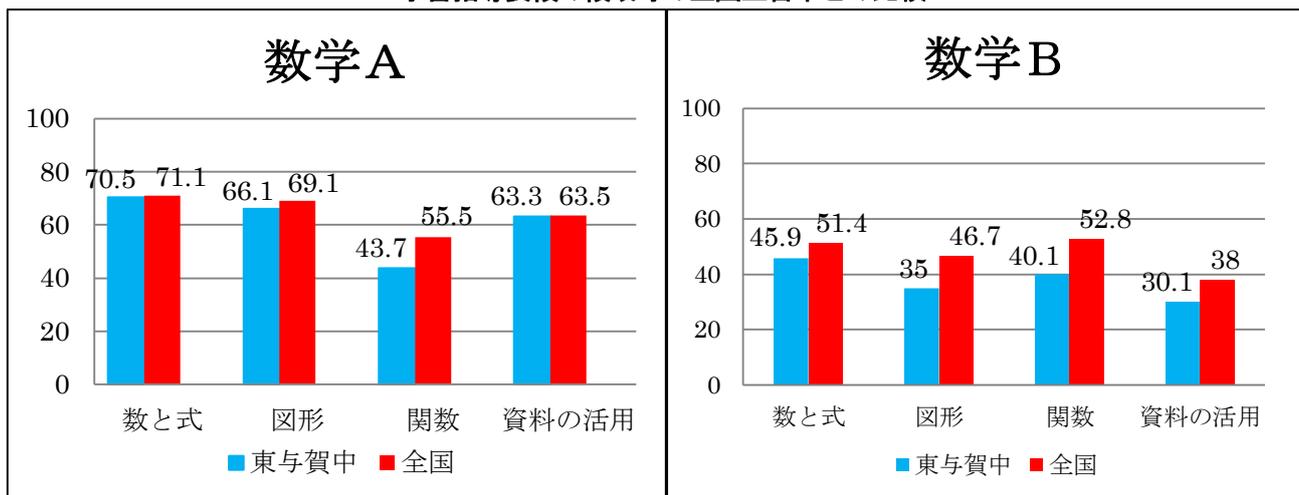


2 数学

(1) 結果

学習指導要領の領域等の全国正答率との比較



数学A、Bのすべての領域において全国正答率を下回っている。特に、数学Aの関数と数学Bすべての領域で全国正答率から5%以上下回っている。問題形式ごとの正答率を見てみると、不等式・連立方程式の計算、等式の変形など問題等の決まりごとを正しく理解できている。ただし、関数全体の問題について理解があまりできていない。特に、関数のxの変域に対するyの変域を求める問題やxの増加量に対するyの増加量を求める問題ができていない。

(2) 各領域における成果と課題

数と式

・数学Aは、ほとんどの問題で全国正答率を上回っていた。特に、不等式や等式の変形、連立方程式の計算の問題は、全国正答率を5ポイント以上上回っていた。一方で、絶対値の意味を答える問題は全国正答率を15ポイント以上下回っていた。もう一度絶対値の意味について理解させる必要がある。

図形

・数学Aは、半分の問題で全国正答率を上回っていた。特に、証明の必要性と意味を問う問題は全国正答率を5ポイント以上上回っていた。空間における直線と平面を問う問題やひし形や三角形の外角についての性質を問う問題が全国正答率を10ポイント以上下回っていた。

関数

・数学A・数学Bは、ほとんど全国正答率を下回っていた。特に、yの変域を求める問題やyの増加量を求める問題は、全国正答率を20ポイント以上下回っていた。

資料の活用

・資料を読み取る問いは、半分の問題で全国正答率を上回っていた。中央値を求める問題は、全国正答率を5ポイント以上上回った。しかし、最頻値についての意味を正しく理解して選択する問題では、全国正答率を10ポイント以上下回った。すべての数学的用語を正しく理解できていないため、問題によって全国正答率との差があった。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業では、電子黒板を活用し視覚的に捉えさせることで、生徒にわかりやすく説明するようにしています。また、グループ学習では、他者に説明することによって、理解をより深めることができると考えます。
- テストでは、問題のポイントを前もって提示して、取り組むべき課題を明確にします。また、問題の難易度を生徒の実態に合わせて作成し、生徒達の頑張りによって、大きな達成感を感じられるような工夫をしています。
- 定期テストや実力テストなどの後は答案を分析し、それぞれの生徒の苦手な領域を克服する手だてを実行していきます。(小テストや補充指導など)
- 小テストやノートチェックなど、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ指導しています。

【家庭では】

予習の仕方

- 教科書の次の授業範囲を読み、大切だと思うところにアンダーライン等を引きましょう。
- 例題を解いてみましょう。解けなかった例題、問題に印をつけて、必ず質問する習慣をつけましょう。

復習の仕方

- 授業で学習した課題は、その日のうちに必ず復習をし、授業ノートの間違いを理解しましょう。
- 計算力をつけるためには、反復練習が必要です。本当に理解しているか、実際に問題を解いて、確かめましょう。解き方がわからないときは教科書の例題やノートを見ながら解きましょう。